

地域学習を通した児童と地域との関わり方に関する一考察

熊本大学 学生会員 ○小田拓実
熊本大学 正会員 田中尚人

1. はじめに

近年、都市部や郊外地域を中心に街並みの均質化が進み、地域の個性が失われつつある。地域の個性を継承していくためには、多感な児童のうちに地域資源と関わる事が重要な役割を果たすと考える。しかし近年、地方部では人口流出に伴いこのような関わりを持つ機会が減少している。地域学習は、学校によって継続的かつ定期的に行われ、児童に「地域と関わり、地域について学ぶ機会」を与えることが可能である。そこで本研究では、過疎や人口減少など課題先進地域である鹿児島県出水郡長島町を研究対象として、各小学校で取り組まれている地域学習を調査・分析することで、「地域学習を通した児童と地域との関わり方」を明らかにすることを目的とする。

2. 研究対象の概要

(1) 長島町の概要

長島町は鹿児島県出水郡にある長島、伊唐島、獅子島、諸浦島からなる地域で、平成 18 年 3 月 20 日に東側の旧東町と西側の旧長島町が合併し、新長島町となった。長島町は、温暖な気候を活かした農業の振興や、様々な魚介・海藻類の採取・養殖漁業が盛んである。^{1) 2)}

図-1 のように、長島町は約 50 年間で総世帯数はほぼ変化していないが人口は約半数となっていることが分かる。これは島外への人口流出の影響である。加えて、平成 19 年 3 月 31 日に町内唯一の高校である鹿児島県立長島高等学校が廃校になったことに伴い、高校生が島外へ進学するようになった。

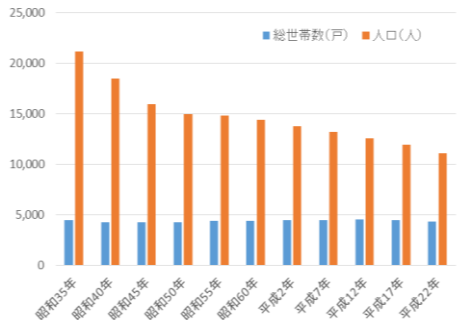


図-1 長島町の人口・世帯推移

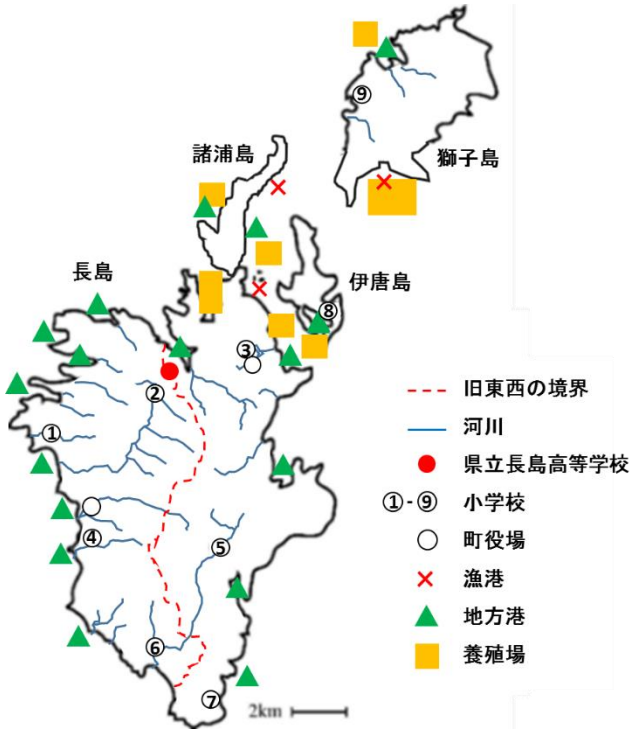


図-2 の小学校の番号付き記号は、表-1 の番号と対応している。図-2 から、長島町の北東では養殖業が盛んなことが分かる。また、西側には河川が多く、それらを利用した水田や畑による農業が盛んである。合併した現在でも東西それぞれに町役場が残っている。

(2) 長島町の小学校の概要

各小学校の概要を表-1 に示した。児童数は長島の北側に集中していることが分かる。また各校の個性は、図-2 やその他の周辺の環境の影響を受けて構成されるものとする。

表-1 各小学校の概要

番号	学校名	島名	児童数(人)	創立(年)	特徴
1	蔵之元	長島	69	143	明治6年、蔵之元小学校(修業年限4年)として設立。
2	平尾		75	132	明治11年平尾十五社神社に中山小学校開校。
3	鷹巣		235	144	平成27年度より本浦小と統合、町立幼稚園併設。
4	城川内		94		校庭の蘇鉄は大正時代に大商家から寄贈されたもの。
5	川床		65		明治4年、郷校「尚志館」として、矢岳で授業を開始。
6	汐見		9	132	明治15年、民家を借りて馬込に学校開設。
7	田尻		25	115	明治33年、川床尋常小学校丸岡文教場開設。平成28年度閉校。
8	伊唐	伊唐島	19	128	1島1集落1小学校の伊唐島にある。
9	獅子島	獅子島	21		平成25年4月に幣串小と統合し、幼小中の一貫校となる。

3. 各小学校における地域学習の特徴

本章では、各校における地域学習の特徴を明らかにするために行ったアンケート・ヒアリング調査の概要と、その調査結果を整理し、考察する。

（1）各小学校における地域学習の調査概要

a) アンケート調査

長島町の各校に授業で取り組んでいる地域学習についてアンケート調査を行った（表-2）。アンケートは全9校中5校から回答があった。また、質問内容が研究者により固定されていたため、この調査で得た情報は研究者の主観が強まっている可能性があった。

表-2 アンケート調査概要

実施日	平成28年11月15日送付・平成28年11月21日締切（必着）
対象校	鷹巣、平尾、蔵之元、川床、城川内、田尻、汐見、獅子島、伊唐の9校
対象者	各校の校長、教頭
目的	長島町の各校における地域学習の特徴について明らかにするため。
方法	各校にアンケート用紙を送付し、回答後に返送していただく。
内容	- 授業として取り組んでいる地域学習の内容について - 地域学習のテーマと目標 - 地域学習が行われる場所 - 地域の人材との関わりの有無

b) ヒアリング調査

アンケート調査の結果をもとに、欠点を補いつつ調査の質を高めるために、各校にヒアリング調査を行った（表-3）。調査結果は表-4に考察を交えて示す。

表-3 ヒアリング調査概要

実施日	平成28年12月12日から平成28年12月14日
時間	各校60分程度
対象校	鷹巣、平尾、蔵之元、川床、城川内、田尻、汐見、獅子島、伊唐の9校
対象者	各校の校長、教頭
目的	アンケート調査の結果を踏まえた上で、回答の自由度を高め、より幅広く各校の地域学習について調査するため。
内容	- 授業として取り組んでいる地域学習について - 授業以外での地域学習（地域の祭り、活動等）について - 児童と地域資源の具体的な関わり方 - 地域学習の役割

（2）地域学習の調査結果の考察

ヒアリング調査の結果の一例に考察を交えたものを表-4に示す。各校で取り組まれている地域学習は、各校区の地勢や文化や伝統などの地域資源と関係が深いことが分かった。

表-4 ヒアリング結果の一例

番号	学校名	地域学習の内容	児童と関わる地域資源	具体的な関わり方
a	蔵之元	授業を通してカヌー・カッターの操縦技術を学習。町主催の大会にも参加	人材 伝統	操縦方法などを地域の人材に教わる。大会には天草、島原の児童も参加。
b	平尾	種子島踊りの踊りと歌と衣装の着付けを教わる。	人材 伝統	種子島踊り保存会員から教わる。
c	平尾	近隣の商店街にインタビューを行う	人材 産業	
d	城川内	磯遊びを行い、魚取りなどを行う。	人材 地勢	保護者や支援隊と合同。
e	汐見	高齢者宅訪問を行い、お話をする。	人材	高齢者宅へ児童が訪問する。
f	田尻	棒踊りを指導してもらう。	人材 伝統	50から70歳の棒踊り保存会が週に3回程度指導
g	田尻	マンダリンセンターを訪れ、温州みかんについて学習する	産業	
h	伊唐	鰯の調理法を教えてもらう。	人材 産業	漁協、漁民会の方に鰯の調理を教えてもらう

4. 地域学習の構造に関する考察

本章では3章の結果をもとに「地域学習における児童と地域との関わり方」の基盤を3種類に分類した。

（1）児童と地域資源との関わり

表-4の地域学習では（g）が当てはまり、児童と地域資源が関わる。児童は地域について資料等を用いて知識を身に付け、地域の魅力を再発見し、地域の個性を認識し、地域に愛着を持つことに繋がる。

（2）児童と地域の人材との関わり

表-4の地域学習では（e）が当てはまり、児童と地域の人材が関わる。児童は地域の人材と関わることで、「人との接し方」を学習し、地域の人材は児童から刺激を受け地域を担う原動力に繋がる。

（3）地域資源を通じた児童と地域の人材との関わり

表-4の地域学習では（a, b, c, d, f, h）が当てはまり、図-3のように、児童は地域資源と地域の人材と同時に関わるため、最も児童と地域の関わりが深い。この関わり方は、主に「地域の文化や伝統と関わり、地域の個性を引き継ぐこと」に繋がる。

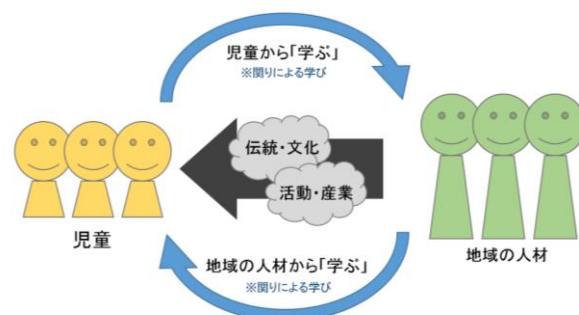


図-3 地域資源を通じた児童と地域の人材の関わり方

5. おわりに

地域学習は、児童と地域資源の関わり場となり、その関わり方は大きく3種類に分類された。このような関わり場を定期的かつ継続的に設けることで「地域の伝統・文化などの継承」に繋がることが分かった。地域学習には、地域の没個性化に歯止めをかける鍵を握っていると言える。

参考文献

- 1) 福永慶彦, 長島町郷土史, 1974. 3.
- 2) 飯尾裕幸, 東町郷土史, 1992